

# COIL 型授業実践紹介

## Vol.3

南山大学

授業名：演習 I

担当教員：山岸敬和

所属：国際教養学部

**実施年度・時期** 2020 年度・第 1 クォーター

**連携先大学** University of Maryland, Baltimore County

**連携先授業名** Advanced Japanese II

**連携先担当教員** Tomoko Hoogenboom

**COIL カテゴリ** アカデミック COIL

**参加学生数** 南山大学 13 名 連携先大学 17 名

**使用言語** 日本語と英語

**コミュニケーションツール** Zoom, Canvas, その他（それぞれの学生の選択による）

### 交流内容

まずアイスブレイキングとして、同期型コミュニケーションの機会を持つ。アカデミックプロジェクトとして、COVID-19 に対する日本とアメリカの政府の対応について、研究計画を提出し、研究をまとめた 5～10 分程度のビデオを作る。お互いのビデオに対してコメントを行う。

**Grouping:** 3 students/group x 10 groups = 30 students

**Product:** Creating a 5-minute video presentation with slides.

Information in the video should be well balanced between Japan and the US

- If speaking in English, add subtitles in Japanese
- If speaking in Japanese, add subtitles in English

### Possible topic:

- How has the Japanese government been handling COVID-19? – process and rationale of the government's policy, comparison to American system should be useful
- How government should handle the social issues caused by COVID19?

**評価方法** 同期型コミュニケーションの録画分、研究計画、プロジェクトビデオを総合的に評価。両授業で全体の評価の 20%としてカウント。

## 担当教員からのコメント

教員同士の打ち合わせによりタイムスケジュールをしっかりと組み、学生同士の取組みの進捗報告を受けながら調整し、全体的に非常にうまくいった。また南山の学生のほとんどが COIL 経験者であったこともスムーズにいった理由として挙げられる。COIL 型授業は複数回実践していくことで教育効果が高まっていくと考えられる。

## 連携先大学担当教員からのコメント

今回扱ったトピックがタイムリーであったこと、また学生たちが日本とアメリカのコロナに関する対応の違いや反応について興味を持っていたこともあり、取りかかりやすかったようだ。COIL は双方のコミュニケーションが基盤となっているため、相手から連絡があった時は、忙しくてもとりあえず連絡を受け取ったということを知らせるよう指導した。ビデオ作成後のピアフィードバックは、自分たちのグループ以外の観点から見た意見などを知るよい機会になったのではないかと思う。

## 学生の成果物の一部紹介

### Introduction

COVID-19 Quick Facts(as of April 30, 2020)


- Japan: 14,516 confirmed cases, 466 deaths
- USA: 1.11M confirmed cases, 64,742 deaths

This presentation will explore and compare the community responses to COVID-19 of both Japan and the U.S.

Individualism- a social theory favoring freedom of action for individuals over collective or state control

Collectivism- the theory and practice of the ownership of land and the means of production by the people or the state

こちらはこの発表のコンテンツについて簡単な紹介です。ご存じの通り、コロナウイルスは世界的に人々を侵しているパンデミックです。ここでは、日本とアメリカに重点を置きます。4月30日まで、日本にはコロナの症例トータルは14516人で、死亡数は466人です。一方、アメリカには症例が111万あり、死亡数は64742です。



### COVID19 Japan Response

- Contributing to the community
  - Hanawa-cho in Fukushima
  - “Hanawa Mask Project”
- Disposable and handmade masks are exchanged daily in exchange for everyday household items
- Masks distributed to medical institutions in the town



コロナウイルスの新たな感染拡大の影響を受け、医療機関でのマスク不足が深刻な問題となっています。その対策として、埴町は4月15日より「埴町マスクプロジェクト」を開始しました。福島県埴町では、住民にマスクの提供を呼びかけています。